

I 実践

1 研究主題

互いに良さを認め合う人間関係や人権意識を育てるための人権教育のあり方

(1) 主題設定の理由

本校では、校訓を「やさしく かしこく たくましく」とし、「元気いっぱい、夢いっぱい、きらり輝く感性豊かな大沼っ子の育成」を教育目標としている。それを受けて、人権教育の目標を各学年の発達段階に応じて、友達と仲良くしたり、相手の気持ちを考え思いやりの心をもって助け合ったり、相手の立場を尊重しながら行動したりできることとした。そこで、児童一人一人がいろいろな人との関わりや直接体験することを通して、自分と同じように他の人も大切に思い、相手の良さや自分の良さを進んで見つけることができるようにしたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 各教科、学級活動、道徳、総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実
- イ 保護者や地域に広げる人権意識高揚のための活動の設定
- ウ 職員への人権に関する意識を高める研修の充実

2 実践内容

(1) 道徳の実践（心のノートを活用した学習の工夫）

題材と心のノートとの関連を図り、自分の内面とふれあい、考えを深められるように心がけた。また、授業を公開して、人権教育に対する理解や啓発を図った。

(2) 総合的な学習の時間 [きら☆らの時間] の実践（第4学年）

きら☆らの時間に、車椅子体験、点字体験、アイマスク体験、手話体験などの福祉学習を行った。

点字体験では、国語で点字の学習をした後に、実際に点字を打つ活動をした。



(3) 保護者への啓発活動と人権メッセージへの募集

県の人権啓発活動の一環として、人権メッセージの募集をした。募集に関するお知らせとカードを全児童に配布し、全校で取り組んだ。保護者向けのお知らせでは、人権について子どもと一緒に考えて、ぜひ書いてみてほしいということを伝えた。低学年では、保護者と一緒に考えて書いたものが多かった。中・高学年では、道徳の授業として全員で取り組んだ学級もあり、全部で360点近い応募があった。集まった作品は、応募規定にそって各学級3点ずつ選考し応募した。

また、人権メッセージコーナーを作成し、応募してくれた全児童の作品を掲示した。



(4) 異学年集団との交流

本校では、毎木曜日に通常よりも10分長い25分間の昼休みロングを設け、異学年同士で遊んだり愛校作業を行ったりしている。異学年交流では、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生というように上級生と下級生がペアになって遊んでいる。遊びの内容は上級生が下級生でも楽しく取り組めるような遊びを考え、工夫して決めている。

また、ランチルームで高学年と低学年とが一緒に給食を食べる交流給食を行っている。

(5) 帰りの会での友達への賞賛

帰りの会では、各学年の実態に応じ、友達の良かったところや頑張ったところを発表する時間を設けている。

(6) 職員研修会の実施

夏季休業中に職員を対象に人権啓発のビデオ視聴を行った。今回は、友達との関わりや相手の気持ちを考えることの大切さ、いじめをなくすためにお互いを認め合い本音で話せる関係作りなど、いじめに立ち向かう勇気の大切さをテーマにした「ありったけの勇気」を視聴した。その後「ありったけの勇気」を活用した指導について、ワークシートをもとに考えた。

3 成果

- (1) 学習の時間や休み時間、清掃の時間など日常生活の中で、相手を認め仲良くすることや協力することの大切さを指導してきている。普段の指導を大切にすることが人権教育の充実に繋がっていることを実感した。
- (2) 総合的な学習の時間の「人にやさしく」では、普段気づかない段差の不便さ、介助する人との信頼関係の大切さなどを実際に体験することができた。直接体験を通して、障害者の苦労や気持ちを理解することができた。
- (3) 人権メッセージの取り組みでは、人権メッセージを考える活動を通し、家庭で人権について話し合ったり、考えたりすることができた。また、メッセージを校内に掲示したことで友達の思いに気づいたり人権についての意識を高めることができた。
- (4) 昼休みロングでは、普段なかなか関わることのない異学年と一緒に楽しく遊ぶことができた。上級生は、遊びを考え進行する中で、下級生に対して思いやりの心をもつことができ、下級生は、遊びを考え教えてくれた上級生に対して、親しみや感謝の気持ちをもつことができた。また、学年をこえて、誰とでも仲良く遊ぶことの大切さを学ぶことができた。
- (5) 帰りの会での友達への賞賛では、友達に優しくしてもらって嬉しかったことや、友達が勉強や運動で頑張っていたことなどを積極的に発表するようになってきた。お互いの良さを見つけ合うことで友達を尊重したり、大切にしたりしようとする気持ちが育っている。
- (6) 職員研修会では、実際にビデオを視聴し、ビデオを活用した人権教育の進め方について考え、職員が人権尊重の理念を認識することができた。

II 今後の課題

- ・ 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など全教育課程を通して、思いやり、助け合い、奉仕の心を育てられるように継続して指導していきたい。
- ・ 児童は、友達と仲良くすることやお互いの良さを認め合うことが大切だと分かっているが、自分の行動に結びつけることができないことが多い。今後も、異年齢者、高齢者、障害者などいろいろな人との関わりや体験を充実させて、児童の人権意識を高めていきたい。
- ・ 児童は身近な大人をモデルとして育っていくので、教師や保護者の人間的資質の向上が大切である。そのためには、研修を充実させ、教師自らの人権意識を高めるようにしていきたい。